

# 論理的で分かりやすい文章を書くことのできる 生徒の育成

—— 主張を支える根拠の適切さを考える

『すっきりシート』の活用を通して ——

長期研修員 青木 三保

## 《研究の概要》

本研究は、中学校国語科の「書くこと」の学習において、主張を支える根拠の適切さに着目した学習を行うことにより、読み手が納得できる論理的で分かりやすい文章を書ける生徒を育てることを目指したものである。そのために、思考の流れをすっきり整理できる『すっきりシート』を用いてモデル文の主張に対する根拠の適切さを読み取らせたり、自分の主張や根拠をまとめさせたりする活動を行った。そして、『すっきりシート』で確認した観点を基に、主張を支える根拠を自己評価させたり相互評価させたりして、主張を支える根拠を更に適切なものにしていく活動を行った。『すっきりシート』の活用が論理的で分かりやすい文章を書くために有効であることを、授業実践を通して明らかにした。

**キーワード** 【国語—中 書くこと 論理的 主張 根拠の適切さ】

群馬県総合教育センター

分類記号：G01-03 平成27年度 255集

## I 主題設定の理由

「生きる力」を育むことがますます重要になっている現在、OECDのPISA調査など学力に関する各種の調査の結果により、我が国の児童生徒の思考力・判断力・表現力などには課題が見られることが明らかになっている。そのため、中学校学習指導要領「国語」の目標には、まず「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成」することが挙げられており、平成20年1月の中央教育審議会答申における国語科の改善の基本方針の中でも「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力」などを育成することが重視されている。

平成27年度の全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった中学校国語の主な特徴として、「伝えたい事実や事柄について自分の考えや気持ちを示してはいるが、根拠を明確にして書く点に依然として課題がある」ことが挙げられている。同調査の群馬県中学校国語の結果分析でも、特に課題が見られる問題として、「自分の考えや気持ちの根拠となる事柄を明確にして書くこと」が挙げられている。また、「はばたく群馬の指導プラン」には、国語で伸ばしたい資質能力として、「立場を意識して論理的に分かりやすく表現することができる」が挙げられている。これらのことから、根拠を明確にして表現すること、わかりやすく表現するために適切な根拠を用いることができる力を付けていくことが重要であることが分かる。

研究協力校でも、論理的に思考したり表現したりすることに苦手意識のある生徒が多い。特に「書くこと」に関しては、国や県の課題とも共通している。その原因としては、主張を支える根拠の適切さを十分に意識させる活動が不足していたこと、集めた材料のどれを基にどのように組み立てていくのかを考えたりする活動が不足していたことなどが考えられる。

以上の様々な課題を踏まえ、「書くこと」の領域で研究を構成することとした。根拠の適切さを意識させながら、自分の書きたい文章に関する思考をすっきりと整理する『すっきりシート』というワークシートを用いて、モデル文から根拠の適切さを読み取らせたり、自分の意見文における主張に対する根拠の明確さや適切さを個人でじっくり考えさせたり、グループで評価しながら検討させたりすることを取り入れることとする。そのような段階的な活動を通して、生徒自身が根拠を明確化することを意識しながら思考し、自分の考えを読み手に分かりやすい論理的な文章で表現する能力を育成したいと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

中学校国語科「書くこと」の領域において、論理的で分かりやすい文章を書くことのできる力を身に付けるために、主張や根拠を明確にし、主張を支える根拠の適切さを考える『すっきりシート』に取り組むことの有効性を授業実践を通して明らかにする。

## III 研究仮説（研究の見通し）

### 1 主張を支える適切な根拠に気付く

課題をつかむ過程において、「すっきりシート1」を使ってモデル文を読み、主張に対する根拠を確認することによって、分かりやすい文章には、主張に対して読み手を納得させる適切な根拠があることに気付くことができるであろう。

### 2 主張を支える適切な根拠を整理する

課題を追究する過程において、「すっきりシート1」に自分の主張に対する様々な根拠を考えながら書き込むことによって、読み手を納得させる適切な根拠を意識しながら整理することができるであろう。

### 3 主張を支える根拠の適切さを評価する

課題を追究する過程において、「すっきりシート2」に示された評価の観点を基に、主張を支える根拠の適切さを自己評価したりグループで相互評価して交流したりすることによって、根拠を更に適切なものにすることができ、論理的で分かりやすい文章を書くことにつながるであろう。

## IV 研究の内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 「論理的で分かりやすい文章」とは

国語科では「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力」を育成することが重視されている。

井上(2007)は「論理的思考」の定義の一つに筋道の通った思考、つまり、ある文章が論証の形式(前提—結論、また主張—理由という骨組み)を整えていることを挙げている。それを受けて本研究では、「論理的」ということを、主張からそれを支える根拠への流れ、根拠となる事実と考察の流れ、根拠から主張への流れの三つが整っていることとし、特に根拠となる事実と考察の流れが重要だと考える(図1)。

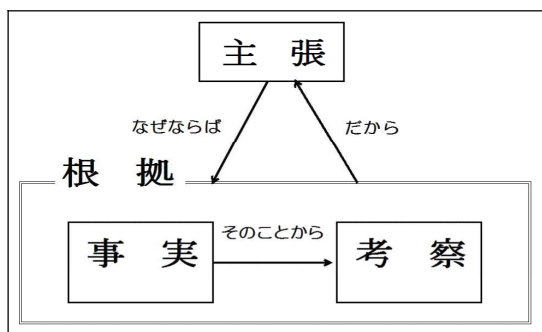


図1 論理的で分かりやすい文章

(図1)。事実を述べるだけでは根拠として十分ではないからである。そこで、「論理的で分かりやすい文章」を、学習指導要領「B書くこと」における指導事項の中から読み取れる主な学習内容(表1)とも併せて、根拠が事実とそこから考えられる考察に区別されており、主張と事実、考察が「なぜならば」「そのことから」「だから」という接続詞の流れに沿って適切につながっていると論理構造を持った文章と捉える。主張、事実、考察が適切につながることによって文章全体の流れが整い、伝えたいことが明確に相手に伝わると考え、本研究では生徒にそのような文章を書かせることを目指す。

表1 論理的な文章を書くことにつながる学習内容(一部抜粋)

	第5学年 及び 第6学年	中学校 第1学年	第2学年	第3学年
学習指導要領「B書くこと」目標	目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。	目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。	目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。	目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。
意見と根拠	○「事実」と自分の感想、意見などを区別して書く ○引用 ○図表やグラフを用いる ○自己評価、相互評価	○根拠が明確に書かれているかの吟味 ○意見や助言の交換 根拠に当たる部分をどのように明確に書いたか	○立場を明確にする ○分かりやすい説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んで描写を工夫したりすること	○自分の立場を鮮明にした上で、意見の中心となる部分をはっきりさせる ○客観性や信頼性の高い資料を進んで用いる ○選んだ資料を適切に引用する…根拠としてふさわしいか検討 ○結論に導くための理由や根拠の取り上げ方

#### (2) 「主張を支える根拠の適切さ」とは

国語辞典を調べると、主張とは「自分の意見・持論」と書かれている。学習指導要領「B書くこ

と」の指導事項では、文章の種類に応じて用語が変わり、「考え」「気持ち」「立場」などの表現がされている。本研究ではそれらを全て含めて「主張」と捉えることとする。また、同じ国語辞典には、根拠とは「判断・推論などを成り立たせるよりどころ。行動などの正当性を支える事実」と書かれている。それを受けて、根拠とは、主張に対してどこからそう考えたのかという原因や理由、具体的な事実やデータのことと捉える。根拠から主張に至る流れの中では、根拠として挙げた事実やデータの解釈や、なぜその根拠によってある主張ができるのかということを示すことが必要である。そこで、事実から考えられることを考察として主張と根拠のつながりを更に強める役割をするものと捉え、事実と考察を併せたものを根拠と定義する。

根拠が適切であれば、読み手は内容に納得できる。そのためには、主張に対する根拠の量が十分であることが必要である。また、根拠が読み手に分かりやすい内容であり、主張との関係に客観性や妥当性があることも必要である。つまり、根拠の適切さとは、根拠の量や質が充実していることである。適切な根拠により主張が支えられることで、文章が論理的にまとまり、読み手にとって分かりやすくなると考える。

### (3) 『すっきりシート』とは

学習指導要領「B書くこと」における「課題設定や取材に関する指導事項」「構成に関する指導事項」及び「記述に関する指導事項」に関わるワークシートである。主張と根拠の関係を可視化することによって内容やつながりの適切さを確認しながら自分の考えをすっきりさせたり、評価の観点を示して見直ししながら主張や根拠をすっきりさせたりすることができることを考え、本ワークシートを『すっきりシート』とする。授業の中の課題をつかむ過程、課題を追究する過程で繰り返し使用することにより、生徒に論理的な文章を書かせることができると考える。

#### ① 「すっきりシート1」

文章から主張と根拠を読み取って確認したり、文章を書く際に自分の考えをまとめていったりするためのワークシートである(図2)。根拠の部分に重点を置き、根拠となる事実とともに、事実から発生した考えや事実を補強する考えなどを考察として記入し、主張との関係が目に見えるような形にする。

課題をつかむ過程では、モデル文を読みながら筆者の主張と根拠をシートに記入させ

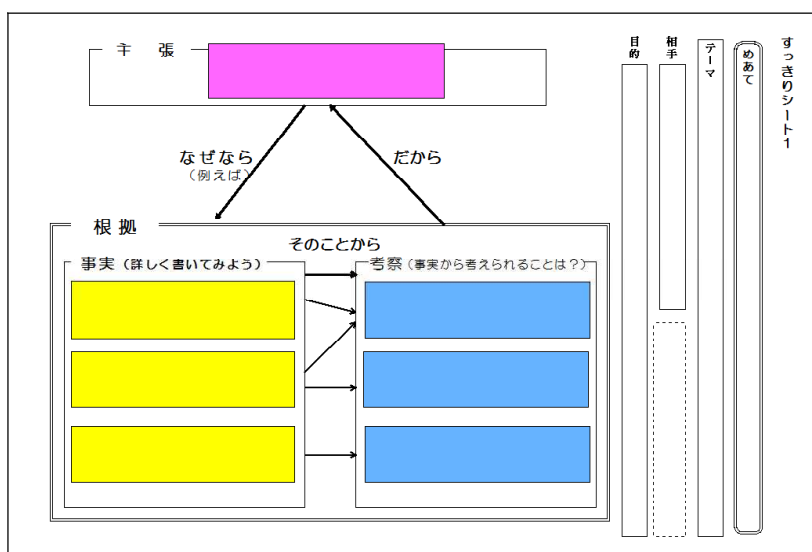


図2 すっきりシート1

ていく。分かりやすい文章とは主張に対してどのような事実や考察が根拠として挙げられているのか、それらの適切な関係とはどういうものなのかを生徒が矢印でつなぎながら図にまとめて考えることで、主張に対する適切な根拠を挙げることの必要性に気付くことができると考える。

課題を追究する過程では、自分自身の主張とそれを支える根拠を付箋紙に書き込んでシートに貼らせていく。それぞれの付箋紙の色を変えて書かせることで、それぞれの項目を意識しながら自分自身の考えを整理して、まとめられると考える。さらに、事実と考察のつながりを矢印で結ぶことで、考えの流れを意識できるようにする。また、「なぜなら」「そのことから」「だから」というそれぞれの考えをつないでいる言葉にも注目させ、全体の大きな流れを捉えて、主張を支える適切な根拠を意識しながらじっくり考えをまとめられるようにする。

#### ② 「すっきりシート2」

「すっきりシート1」に書かれた主張と根拠の適切さを自己評価したり、相互評価して交流した

りして見直す活動を行わせる際に用いる。自らの文章を一人で読み返すだけでは、改善点を見付けにくい。相互評価を取り入れることにより、自分では気付かない間違いや改善点を見付けることができる。また、友達の記事を見ることで、そのよさを自分の文章に取り入れることも可能である。しかし、生徒に評価する観点が無ければ、文章の良し悪しは判断できない。客観的に主張を支える根拠の適切さを評価できる知識もまだ十分には身に付いていないので、評価の観点が必要になってくる。

そこで、モデル文の読み取りで気付いた文章の分かりやすさを基にして、「すっきりシート2」として、根拠の中の事実

と考察を中心に、書かれている内容や量、相互の関係の適切さについて評価の観点を設定する。また、相互評価を具体的に改善に生かせるように、一言アドバイス欄も設けて活用することとする(図3)。生徒はその観点に従って根拠の適切さを評価してお互いにアドバイスすることで、主張と根拠を更に整え、自分の考えを再確認してすっきりさせていくことができる。そして、それを基に構成を考えて文章にすることで、論理的で分かりやすい文章を書くことにつなげることができる。

(4) 「一次意見文」「二次意見文」とは

授業で生徒が書いた意見文を指す。同じテーマを取り上げ、見通し1の導入段階で書いたものを一次意見文、見通し3の評価後の段階で書いたものを二次意見文とする。まとめの自己評価で一次意見文と二次意見文を比較させて、生徒自身が身に付いた力を自覚できるようにさせる。

⑥ 栄養バランスが悪い↓好き嫌いが無くなるは、少し違う気がする。 (一言アドバイス)		④ 事実の数が十分そろっている。 (思い込み、決めつけで書かれていない)	③ 事実が正確である。	② 事実内容が分かりやすく、数値が具体的に示されている	① 立場を支える根拠になる事実が書かれている。	評価の観点	評価
B	A	B	A	A	A		

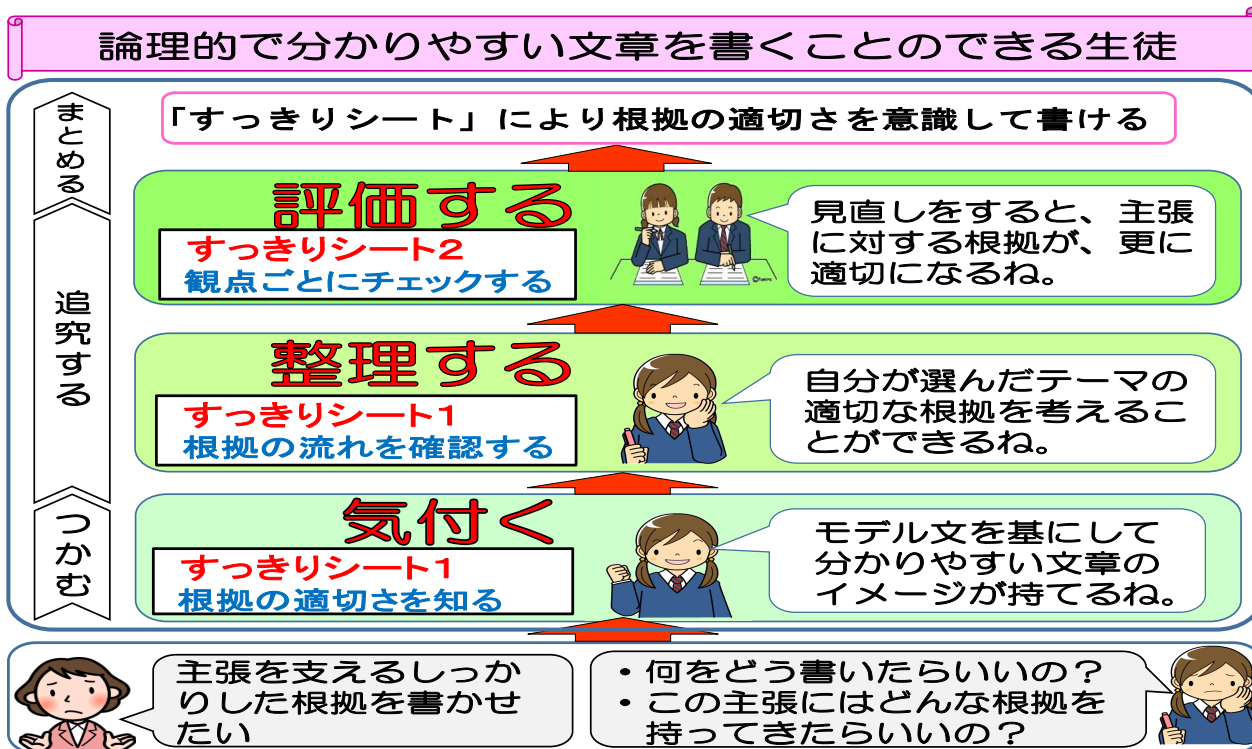
めあて 立場と根拠のつながりを評価しよう

すっきりシート2

さんのすっきりシート1では

図3 すっきりシート2

2 研究構想図



## V 研究の計画と方法

### 1 授業実践の概要

本研究は、中学校国語科「B書くこと」の領域において、主張とそれを支える適切な根拠を意識できる『すっきりシート』の活用を通して、論理的で分かりやすい文章を書くことができる生徒の育成を目指したものである。授業の中に主張に対する適切な根拠を意識しながら教材文を読んで『すっきりシート』に記入させる活動を組み込み、自分の考えをまとめる際の参考にさせる。自分の考えをまとめる際にも『すっきりシート』を記述させ、そのシートを基に主張を支える根拠の適切さを読み合い、評価を交流し、推敲する。これらの活動を通して、論理的で読み手に分かりやすい文章を意識しながら書けるようになることを実践的に研究する。

対 象	研究協力校 中学校第2学年 38名
実 践 期 間	平成27年10月16日～10月27日 6時間
単 元 名	「立場と根拠を明確にして書こう ～立場と根拠を明確にして、自分の思いを書く～」 教材名「意見文を書く」
単 元 の 目 標	主張を支える適切な根拠を考え、意見文を書くことができる。

### 2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
〔見通し1〕 主張を支える適切な根拠に気付く	課題をつかむ過程で、「すっきりシート1」を使ってモデル文の主張に対する根拠を確認することは、分かりやすい文章には主張に対して読み手を納得させる適切な根拠があることに気付くために有効であったか。	・「すっきりシート1」の事実と考察のつながり ・「すっきりシート1」への生徒の取組の様子 ・振り返りの記述
〔見通し2〕 主張を支える適切な根拠を整理する	課題を追究する過程で、「すっきりシート1」に自分の主張に対する適切な根拠を考えながら書き込むことは、読み手を納得させる適切な根拠を意識しながら自分の考えを整理することに有効であったか。	・「すっきりシート1」の記述 ・「すっきりシート1」への生徒の取組の様子 ・振り返りの記述
〔見通し3〕 主張を支える根拠の適切さを評価する	課題を追究する過程で、「すっきりシート2」に示された評価の観点を基に、主張を支える根拠の適切さを自己評価したり相互評価したりすることは、根拠を更に適切なものにして、論理的で分かりやすい文章を書くことに有効であったか。	・「すっきりシート2」の記入の仕方 ・アドバイス後の「すっきりシート1」推敲の様子 ・振り返りの記述 ・意見文の内容

### 3 抽出生徒

A	事前アンケートでは、文章を書くときに困ることを数多く挙げており、考えて書くことに苦手意識を持っている。実際の文章を見ても、具体的な根拠を書こうという意識はあるものの、主張を支える適切な根拠とはどのようなものか、というところまでは至っていない。見通し1と見通し2の「すっきりシート1」の活用で主張を支える適切な根拠について十分に考えさせ、整理をさせていくことで、論理的な文章を書くことにつなげていきたい。
B	自分の考えを文章に表すことに苦手意識を持っている。主張を明確に書こう、具体的な根拠を書こうという意識はあるが、様々な根拠を挙げて読み手に分かりやすい文章にしていくことができている。見通し2で「すっきりシート1」に

	じっくり取り組ませ、見直し3で「すっきりシート2」の観点を基に評価して見直しをさせていくことで、論理的で分かりやすい文章を書くことにつなげていきたい。
--	---

#### 4 評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
テーマに対する自分の主張と根拠を明確にして、意見文を書いている。	根拠となる事実や事柄を明確にして、それを支える考えを意識しながら、主張の明確な意見文を書いている。	読み手に自分の考えが伝わるように、適切な語句を選択して使っている。

#### 5 指導計画

時間	○主な学習活動 □ 評価規準	□ 学習課題 ( ) 評価の方法	●研究上の手立て	関	書	言
1	「意見文を書こう」で学習することを知り、計画を立てよう ○学習計画表を見て、自分の主張を決めて意見文を書くことを知る。 ○身に付けたい力、学習の流れを確認し、自分のめあてを持つ。 ○比較することで身に付いた力を具体的に意識できるよう、既習事項を基に同じテーマで一次意見文を書く。 自分の主張や伝えたい事実を明確にして意見文を書くことを理解し、個人目標を考えている。(観察 学習計画表) ----- テーマに対する自分の考えを文章に表すことができている。(一次意見文)			○	○	○
2	モデル文を読んで、筆者の主張とそれを支える根拠の適切さをつかもう ●筆者の主張とそれを支える根拠を捉えて「すっきりシート1」にまとめる。 ●主張と根拠のつながりを「すっきりシート1」で確認し、文章の分かりやすさという観点から根拠の適切さを確認する。確認したことを「すっきりシート2」にまとめて、後に自己評価や相互評価の際に使えるようにする。 モデル文の主張と根拠を読み取り、根拠の適切さに気付いてまとめている。 (すっきりシート1 すっきりシート2 学習計画表) ○モデル文を基に、反論の効果について考える。				○	
3	主張と根拠を明確に、自分の考えをまとめよう ●選んだテーマに対する自分の主張とその根拠を考え、「すっきりシート1」にまとめる。 ●主張、根拠となる事実、そこからの考えを付箋紙で色分けして書き、思考の流れがはっきり意識できるようにする。 根拠を明確にして自分の考えをまとめている。(すっきりシート1 観察)					
4	主張を支える根拠の適切さを評価し、より良くしよう ○練習問題を通して「すっきりシート2」の観点を確認する。 ●「すっきりシート2」を基に自己評価をして、自分の主張を支える根拠を推敲する。 ●3～4人のグループで、根拠の適切さについて相互評価をする。 ●友達の評価を基に、自分の挙げた根拠の適切さを再検討する。 主張を支える根拠の評価の仕方を理解して、友達の評価をしたり自分の根拠を見直したりしている。(すっきりシート1 すっきりシート2 観察)				○	
5	文章構成を考えて、主張と根拠が明確な文章を書こう				○	○

	<p>○「すっきりシート1」を基に文章構成を考え、二次意見文を書く。</p> <p>○伝えたいことが相手に伝わる文章に推敲する。</p> <p>主張を支える根拠が適切で、流れの整った文章を考えて書いている。 (二次意見文 学習計画表)</p>			
6	<p>お互いの文章を読み合っ、分かりやすい文章の書き方について振り返ろう</p> <p>○グループで二次意見文を読み合い、相互評価する。</p> <p>○一次意見文と比較して、自己評価する。</p> <p>○分かりやすい文章についてまとめる。</p> <p>主張に対する適切な根拠を備えた文章が分かりやすい文章であるということを理解している。(評価カード 学習計画表)</p>			○

## VI 研究の結果と考察

### 1 主張を支える適切な根拠に気付く(見通し1)

#### (1) 全体の学習の様子

意見文を書くに当たって、既習事項の確認を行うとともに、書く相手や目的を明確にするようにした。生徒たちは、示された四つのテーマから一つを選び、その根拠を考え、自分の主張を決定し、一次意見文としての作文を書いた。

その後、主張と根拠の流れの整ったモデル文を提示して、「すっきりシート1」を用いてその主張と根拠を確認することで、分かりやすい文章を書くポイントである主張と根拠の関係について考えるという学習活動を行った。

追究の場面での「すっきりシート1」の使い方と同じになるように、筆者の主張、根拠となる事実と考察をカードに書き、「すっきりシート1」のそれぞれの場所に貼り付けさせて、主張を支える適切な根拠を意識させた(図4)。生徒たちは、モデル文、カード、「すっきりシート1」を見比べながらまとめていき、ほぼ全員の生徒が主張と根拠となる事実と考察を正しく読み分けることができた。続いて事実と考察を矢印で結んで、その考えの流れを確認させた。初めは間違っつなぎ方をしていた生徒も、接続詞に着目させたり、矢印の部分が続けて読んで関係を確認してみようと促したりすると、正しい流れを書き入れることができた。

続いて、モデル文が読み手にとって分かりやすい文章であることを確認し、なぜこの文章が分かりやすいのかについて考えさせた。根拠に着目して、事実と考察がそろっていることの重要性や主張と根拠の関係に気付いて意見として述べている生徒が多く見られた(表2)。そして、生徒から出された意見を「分かりやすい文章のポイント」として全体で整理し、確認を行った。そのため、授業の振り返りには、適切な根拠とはどのようなものかに気付いたという意見、今後の自分の文章

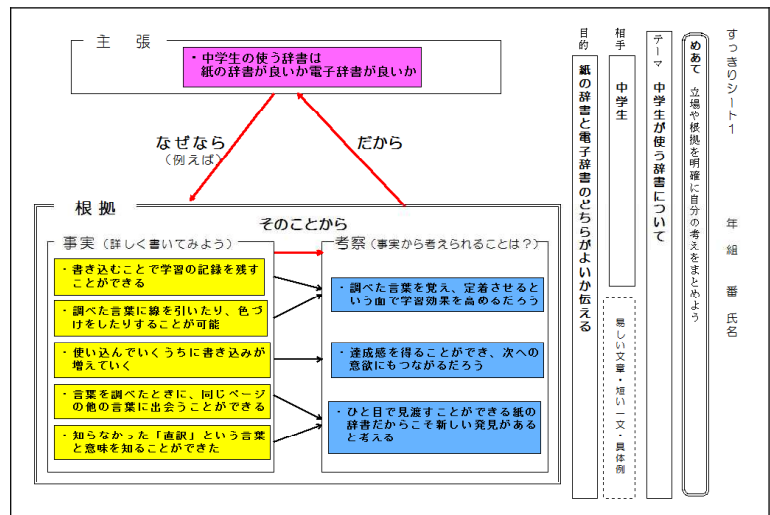


図4 「すっきりシート1」モデル文の読み取り

表2 モデル文の分かりやすさの理由

- 二つの根拠(事実と考察)を示している。
- 根拠がたくさん書かれている。
- 体験などを基に具体的に書いてある。
- 主張、事実、考察がはっきりしている。
- 主張、事実、考察の三つが矛盾していない。



に生かしたいという意見が見られた。文章の分かりやすさの理由を全体で共有したことの効果であると考えられる。

単元終了後に「すっきりシート1を使ってモデル文の主張と根拠の分かりやすさをまとめたことは、これから自分が意見文を書くために役立ったと思うか」というアンケートを行った。この質問に対しても、「とても思う」、「思う」を合わせて98%という回答があった。ここからも、ほとんどの生徒が主張と根拠の関係や根拠の内容の適切さに気付き、自分の書こうとする文章への見通しが持てたことが分かる。

これらの結果から、モデル文を読み取って「すっきりシート1」に主張と根拠の関係をまとめ、文章の分かりやすさの理由を確認することは、生徒が主張を支える根拠の適切さに気付いていくために有効であったと考える。

## (2) 抽出生徒の学習の様子

一次意見文では根拠の中の事実と考察という意識のなかった抽出生徒Aは、「根拠は二つに分かれるのか」と、真剣に根拠を読み分けようとしていた。並べているうちに、「これは最後に『できる』と書いてあるから事実だ。こちらは『考える』だから考察だ」というつぶやきが聞かれ、主張と根拠を正しく並べ、その流れを書き入れることができていた。抽出生徒Bも集中して取り組み、主張と根拠、それらの関係を正しく読み取ることができていた。モデル文の分かりやすさの理由を尋ねたところ、抽出生徒A、Bは以下のように答えていた。

「実際にやってみたことと、自分の考えの両方が書かれているところ」

「根拠の中に、事実と考察が具体的に書いてあるところ」

このことから、モデル文の根拠に着目することによって、根拠として事実と考察を挙げることのよさに気付くことができたことが分かる。

また、抽出生徒A、Bの授業後の感想には、以下のようなことが書かれていた。

「モデル文の根拠は具体的に書いてあって分かりやすい。自分が文章を書くときの参考にしたい」

「全ての事実に考えが付いていて驚いた。主張と根拠がしっかりしていると、とても読みやすい」授業全体を通して、どのような根拠が適切なのかということに気付き、自分の書こうとする文章への見通しを持てたことが分かる。

以上のことから、モデル文を読み取って「すっきりシート1」に主張と根拠をまとめ、文章の分かりやすさの理由を確認することは、生徒が主張を支える根拠の適切さに気付いていくために有効であったと考える。

## 2 主張を支える適切な根拠を整理する（見直し2）

### (1) 全体の学習の様子

モデル文で気付いた主張を支える根拠の適切さを意識しながら、第1時で自分が選んだテーマについての主張と根拠を「すっきりシート1」に整理していく活動を行った。自分の主張、根拠となる事実、事実から考えられる考察をそれぞれ別の色の付箋紙に書き、「すっきりシート1」のそれぞれの項目の位置に貼るように指示した。生徒たちは、前時に作成したモデル文を整理したシートを見て、分かりやすい文章のポイントを確認しながら、どのような根拠を挙げていけばより分かりやすい文章になるのかを意識して付箋紙を書いていた。多くの生徒が具体的な事実や自分の経験を書き込んだり、事実からつながる考察の数を増やしたり、一次意見文で挙げた根拠を更に充実させることができていた。

授業後の振り返りでは、「自分の考えをまとめるのに重要なことや必要なことが分かったので、文章が書きやすくなった」という意見が見られた。根拠を整理することの必要性を確認できたので、「すっきりシート1」の効果を実感できたと考える。

単元終了後に「すっきりシート1を使って自分の主張と根拠をまとめたことは、自分の考えを整理するために役立ったと思うか」というアンケートを行った。この質問に対しても、「とても思う」「思う」を合わせて98%という回答があった。ここからも、ほとんどの生徒が、分かりやすい文

章を書いていくために根拠を整理することの必要性を感じていたことが分かる。

これらの結果から、生徒が「すっきりシート1」に主張と根拠となる事実と考察のつながりを考えながらまとめていくことは、主張を支える適切な根拠を整理するために有効であったと考える。

## (2) 抽出生徒の学習の様子

抽出生徒Aは「学校の昼食は給食が良いか弁当が良いか」というテーマに対して、「給食が良い」という主張で根拠を考えていた。一次意見文では、根拠の中の事実と考察という意識はなかったが、既習事項を生かしながら、「給食は栄養バランスがしっかりしている」という事実から、「そのおかげで健康で強い体ができる」という考察を根拠として挙げていた。併せて、事実と考察のつながりが分かりづらい根拠も挙げていた。そこで、事実と考察の関係を良く見直すように声かけを行った。授業中の観察や授業後の振り返りから、「いろいろな事実を考え、根拠をできるだけ具体的に書こう」という思いで取り組んでいたことが分かった。実際の「すっきりシート1」でも根拠となる事実の数を増やすことができていた。また、事実と考察の間に矢印を書き込んで可視化することで、思考の流れが分かりやすくなり、事実から考察のつながりが、納得できる自然なものになった(図5)。抽出生徒Bは「電車やバスの優先席はある方が良いか、無くすべきか」というテーマに対して、「ある方が良い」という主張で根拠を考えていた。一次意見文では、「転んだり倒れたりしたら命に関わる」という一つの根拠しか挙げられなかった。「すっきりシート1」では、事実と考察を意識させたことで、一次意見文に挙げた以外の実事には何があるか、そこからつながる考察の部分にはどのようなことが入るかを想像しながら、複数の根拠を付箋紙に書き込むことができていた。また、いろいろな立場から主張を眺めてみるよう声をかけると、席を譲る立場、譲られる立場の両方の視点に自らを置いて、事実や考察を分類しようとしていた(図6)。

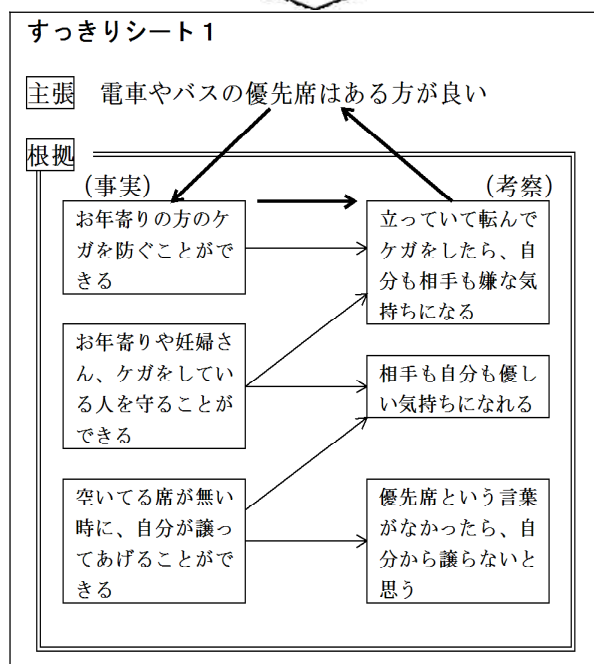
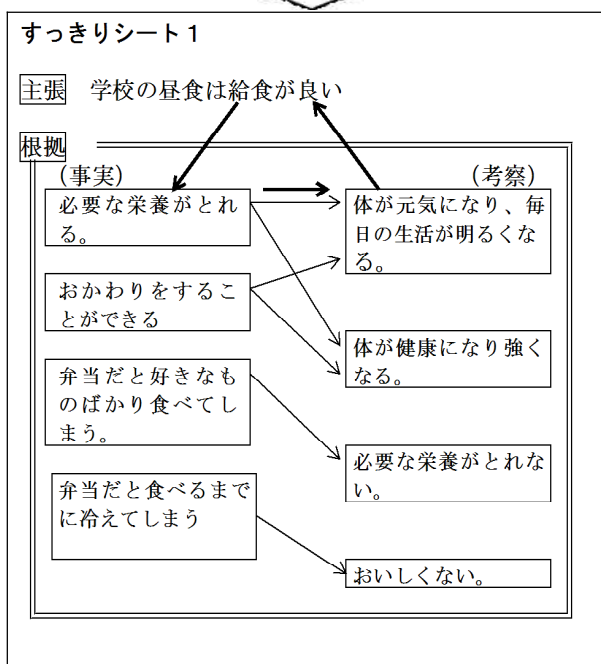
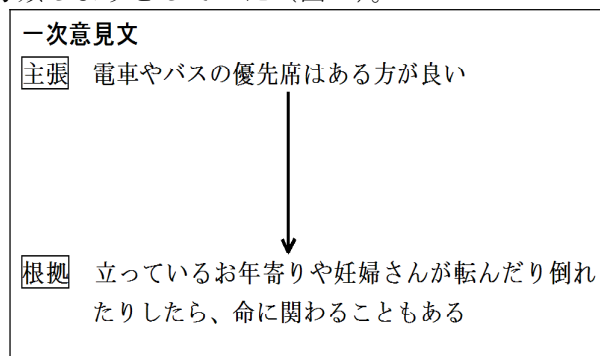
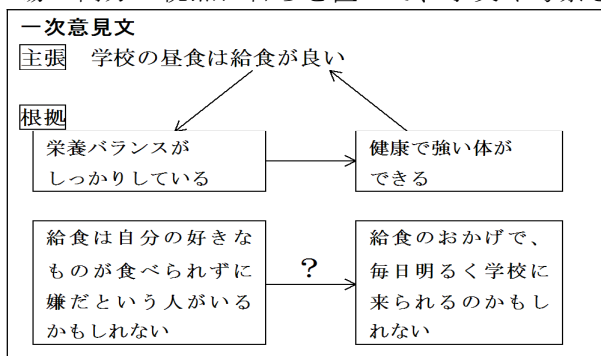


図5 抽出生徒Aの根拠の変化

図6 抽出生徒Bの根拠の変化

抽出生徒A、Bの授業後の感想には以下のようなものが見られた。

「事実と考察を付箋紙に書いて貼り付けていくことで、とても分かりやすくなったと思った」

「前回の意見文に根拠としての事実と考察を足した。それだけで文章がとてもよく理解できる」

このことから、「すっきりシート1」を活用して思考の流れを意識させることで、自分の根拠を整理することへの意識が高まったことが分かる。

以上のことから、付箋紙を使って「すっきりシート1」に考えをまとめて事実と考察の流れを確認することは、主張を支える適切な根拠を整理するために有効であったと考える。

### 3 主張を支える根拠の適切さを評価する（見直し3）

#### (1) 全体の学習の様子

読み手に分かりやすく伝わるように、主張を支える根拠のつながりを評価し、見直す学習活動を行った。まず、根拠の適切さを評価する観点を「すっきりシート2」として提示して、「すっきりシート1」の自己評価を行い、自分なりに根拠の適切さを見つめ直した。「事実の数が十分そろっている」という数字で比較できるような評価しやすい項目については、自信を持って評価をする生徒も多かった。そのほかの項目についても、自分なりの課題を見付けようと、集中して取り組んでいた。

次に、同じテーマを選んだ3～4人のグループで、「すっきりシート2」を使って互いの根拠の適切さを相互評価した（図7）。どの生徒も友達の主張と根拠を見ながら真剣に評価し、アドバイスを書いていた。一言アドバイスには、観点に沿った指摘をした以下のようなものが見られた。

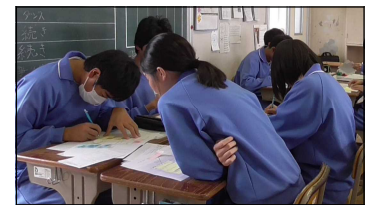


図7 相互評価の様子

「もっと事実と考察を書いた方が良い」

「良い事実が書かれているから、考察ももう少し考えたら良くなる」

さらに、『栄養バランスが良いから好き嫌いがなくなる』の流れは少し違う気がする」

『何回も見返せる』という事実がどの考察に結びつくのか分からない。しっかり矢印でつなごう」など、どこを直せば良いかという書き手を意識した具体的なアドバイスを書けた生徒もいた。

その評価を受け、各自が根拠の見直しを行った。グループの形態のままで、評価やアドバイスに疑問があれば友達に聞いたり、友達の「すっきりシート1」を見せてもらって参考にしたりして進めるように指示した。評価の繰り返しをしたことで、評価し合ったことのよさを感じられたことが「人に言われて気付いた所もあって、それを直せたので良かった」

「同じような意見の人と話して、自分では思いつかなかった考えを知れて良かった」

という授業後の振り返りから分かった。見直し後に再度行った自己評価の結果も、92%の生徒が初めの評価よりも良くなっていた。

根拠に着目して一次意見文と二次意見文を見てみると、主張を支える根拠として、事実だけしか書けなかった生徒は、一次意見文の13人から二次意見文では3人に減り、根拠として事実と考察の両方が書けた生徒は、25人から35人に増えた（図8）。また、書かれている事実の平均個数は1.7個から2.2個に増えており、考察の平均個数は1個から1.9個に増えていた。これは、事実や考察を充実させて自分の意見を論理的にしようとした表れだと考える。

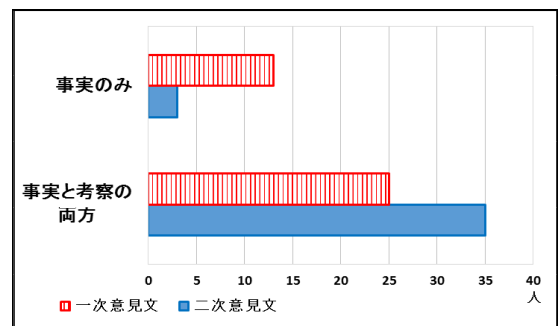


図8 文章に書かれた根拠の内容

一次意見文と二次意見文を比較しての自己評価でも、以下のようなものが見られた。

「みんなの根拠を見たり、アドバイスをもらったりして、前よりも言いたいことが明確になった」

「多角的な見方をしたり、あやふやでない根拠を書いたりすると、説得力が増すことが分かった」

このことから、評価の繰り返しで、分かりやすい文章への意識を高め、実際に文章を書くために

も役に立ったことが分かる。

単元終了後に「すっきりシート2を使って主張と根拠を自己評価したり、グループで話し合ったりしたことは、自分が分かりやすい文章を書くために役立ったと思うか」というアンケートを行った。この質問に対しても、「とても思う」「思う」を合わせて95%という回答があった。ここからも、ほとんどの生徒が分かりやすい文章を書くために自己評価、相互評価を行うことの効果を感じていたことが分かる。

また、授業実践前の6月と授業実践後の10月に「文章を書くときに意識することはどのようなことか」というアンケートを行った。目的意識や相手意識を明確にする、文章構成を考えるなどの項目の意識も高まっていたが、特に主張と根拠に注目して見てみると、「自分の主張を明確に書くことを意識する」と答えた生徒は67%から81%へと14ポイント増加していた。「根拠を具体的に書くことを意識する」と答えた生徒は54%から88%へと34ポイント増加しており、「主張から根拠への適切な流れを意識する」と答えた生徒は33%から88%へと55ポイント増加していた（図9）。これらの結果から、文章を書く際の根拠に対する意識が高まったことが分かる。

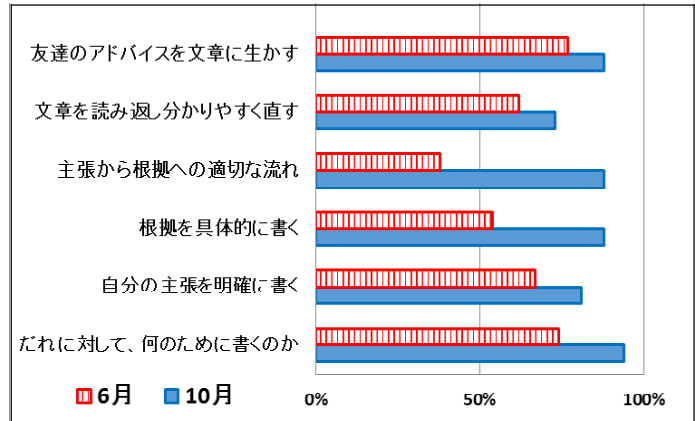


図9 文を書くときに意識すること（複数回答可）

以上のことから、評価の観点を与えて立場を支える根拠の適切さを自己評価したり相互評価したりすることは、根拠を更に適切なものにして、論理的で分かりやすい文章を書くために有効であったと考える。

## (2) 抽出生徒の学習の様子

抽出生徒Aは、自分の書いた「すっきりシート1」に自信が持てず、初めの自己評価で「事実・内容が分かりやすく、数値が具体的に示されている」の項目にC評価を付けていた。しかし、グループでの相互評価でB評価を付けてもらったり、良かった部分を認めてもらったりしたことで、自信を持ったようであった。それを受けて、事実の付箋紙を増やしたり、「すっきりシート1」の流れを表す矢印を書き足したり、積極的に見直しを行っていた。見直し後の二度目の自己評価では、前述の項目も含めて4項目をプラスの評価にしていた。実際に書いた一次意見文と二次意見文を比較しても、「すっきりシート1」の見直しを繰り返したことにより、効果が現れていたことがわかる。主張に対する根拠の書かれている2、3、4段落では、傍線（—）のように事実を複数挙げ、事実からどのようなことが言えるかという考察を網掛け（■）のように書くなど、事実と考察のつながりを意識しながら、自分の意見文を適切な根拠の整った論理的な文章にすることができていた（図10）。

（一次意見文）

ぼくは、給食の方が良いと思います。なぜかという、給食はご飯や野菜、おかずなどのバランスがしっかりしています。栄養士さんが献立を考えて作ってくれますので、一食分のタンパク質などの栄養もよくとれます。そのおかげでぼくたちの健康で強い体ができます。

給食は自分の好きなものが食べられず嫌だと言っている人も見られます。でも、一から見直してみると、給食のおかげでぼくたちは毎日明るく学校に来られるのかもしれない。給食はぼくたちになくてはならないものです。

（二次意見文）

ぼくは、学校の昼食は給食の方が良いと思います。その理由は二つあります。まず一つ目は、栄養士さんが栄養のバランスを考えて作ってくれているということです。だから、日に必要な栄養もきちんととれ、健康的な強い体になります。

二つ目は、おかわりができることです。中学生は成長期なので、たくさんご飯を食べなくてはなりません。おかわりをしたくさん食べられることで健康にもなり、明るく生活できると思います。

このような意見に対して、お弁当はいつでも好きなものが食べられて良いという人もいるかもしれませんが、好きなものばかり食べていると栄養が偏り、生活習慣病などの怖い病気も出てくるかもしれません。

以上のことから、学校の昼食は、健康面や栄養面でも優れている給食の方が良いと思います。

図10 抽出生徒Aの意見文の変化

抽出生徒Bは、初めの自己評価の場面では、2項目にB評価を付けていた。見直し後のグループでの相互評価にも真剣に取り組み、「すっきりシート2」の評価の観点と照らし合わせて、グループの友達「すっきりシート1」を評価していた。一言アドバイスの欄には、「事実の3枚目をもう少し具体的に書いた方が良い」「考察がもう少し増えると、もっと良いと思う」という具体的なアドバイスができていた。友達から渡された「すっきりシート2」には、自己評価と同じ評価だったものもあり、見直す箇所を絞って確認をしていた。そして、書かれていた一言アドバイスと自分の「すっきりシート1」を見比べながら、より分かりやすいものにしようと自分の根拠を見直していた(図11)。見直しをした「すっきりシート1」を基に書いた二次意見文では、事実の数、事実と考察のつながり、根拠から主張の流れを意識して書くことができていた。さらに、相互評価で友達からもらったアドバイスを点線(…)のように文章に生かしていた(図12)。

すっきりシート2		B		皆さんのすっきりシート1では	
めあて		立場と根拠のつながりを評価しよう			
		評価の観点		評価	
①	立場を支える根拠になる事実が書かれている。	A	A	①	立場を支える根拠になる事実が書かれている。
②	事実内容が分かりやすく、数値が具体的に示されている	A	A	②	事実内容が分かりやすく、数値が具体的に示されている
③	事実が正確である。	B	B	③	事実が正確である。
④	事実の数が十分そろっている。	A	A	④	事実の数が十分そろっている。
⑤	事実の考察がされている。	A	A	⑤	事実の考察がされている。
⑥	事実と考察を無理矢理つなげていない。(矛盾や飛躍がない)	B	B	⑥	事実と考察を無理矢理つなげていない。(矛盾や飛躍がない)

図11 抽出生徒Bのもらった「すっきりシート2」

(二次意見文)  
 私は電車やバスに優先席は必要だと思う。その理由は一つある。ケガをしている人などを大きなケガから守ることができるといふことだ。というのも、大きな揺れが起きて転倒してしまう場合、優先席が必要になる人たちは私たちが以上の大きなケガ、大きな事故に巻き込まれてしまうからだ。座つていても急停車すれば危ないのだから、立つていても二つ目は、優先席を譲ることにより、自分も相手も、周りの人でさえも優しい気持ちになれるからだ。私はたまにしか電車に乗らないが、近くの人が席を譲っているのを見て、とても優しい気持ちになったことがある。自分で席を譲ったこともあったが、その時もとても優しい気持ちになった。優先席がなくても席を譲る優しい人もいるかもしれない。しかし、「優先席」と書いてあるから譲りやすいということもあるのではないかと思う。だから優先席は必要だと思うし、さらに優しい人が増えてくれるとよいと思う。

図12 抽出生徒Bの二次意見文

二次意見文の作文後には、抽出生徒A、Bから以下のような感想が聞かれた。「見直しをしたすっきりシート1があったので、おかしい所が無く、主張と根拠がしつかり書けた」「友達の評価のおかげで、自分の文章の足りなかつたことを知ることができた。言いたいことが書けたので良かった」

このことから、繰り返しの評価や見直しを行ったことで、それらの効果を感じながら分かりやすい文章を書けたと言える。

また、単元の振り返りでも、抽出生徒Aは、「今まで書くことは嫌いだったけれど、意外と楽しいんだなと思った」と書いており、活動のよさを感じながら自信を持って作文に取り組んでいたことが分かる。抽出生徒Bは、「主張と根拠を明確にすることで、より相手に読みやすく、伝えやすくなることが分かった」と書いており、活動を通して分かりやすい文章について気付き、理解していたことが分かる。

以上のことから、評価の観点を与えて主張を支える根拠の適切さを自己評価したり相互評価したりしたことは、根拠を更に適切なものにして、論理的で分かりやすい文章を書くために有効であったと考える。

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

○ 「すっきりシート1」を使って考え方を確認しながらモデル文の根拠の適切さに気付き、それ

を基に自分の主張と根拠を「すっきりシート1」の枠組に当てはめながらまとめていくことで、主張に対する適切な根拠を整理して、論理的な文章を書くことにつなげることができた。

- 「すっきりシート2」で評価の観点を示し、それを基に自己評価と相互評価を繰り返し行うことで、自分の根拠を見直し、より適切なものへ改善することができ、論理的で読み手に分かりやすい文章を書くことができた。

## 2 課題

- 根拠の適切さについて評価する場面での、一人一人の評価する力が課題となる。良い文章を多く読ませる、推敲の機会を多く持つなど評価に慣れさせること、より客観的に生徒も理解できる評価の基準を示すことなど、指導の工夫が必要である。
- 論理的な文章についての生徒の意識を更に高めることが課題となる。「書くこと」の学習はもちろん、様々な文章を書く際にも「すっきりシート」を活用する機会を多く持ち、生徒に論理的な文章のイメージをしっかりと持たせることが必要である。

## VIII より良い実践に向けて

### 1 繰り返しの指導

「書くこと」の力は一朝一夕に身に付くものではない。学習指導要領に示された指導事項を生徒の身に付けさせるためには、複数年を見通した指導が重要である。本研究で提案した「すっきりシート」の活用をきっかけに、根拠の並べ方など文章の組み立ての意識を高めていくことも含めた、既習事項の習得段階に応じた指導を様々な場面で継続して行っていくことで、論理的な文章を書く力が身に付き、それを日常化させていくことができると考える。

### 2 他教科への広がり

本研究では、「書くこと」の領域において、文章の論理構造を理解して、論理的で分かりやすい文章を書くための指導を行ってきた。文章の論理構造を理解することは「書くこと」のみならず、他領域にもつながる。さらに、国語科の学習で身に付けたことを他教科にも広げ、活用することで、論理的に思考する力が身に付いていくと考える。

#### <参考文献>

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説 国語編』(2008)
- ・国立教育政策研究所 教育課程研究センター 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 国語】』(2013)
- ・井上 尚美 著『思考力育成への方略—メタ認知・自己学習・言語論理—』明治図書(2007)
- ・鶴田 清司・河野 順子 編著『論理的思考力表現力を育てる 言語活動のデザイン 中学校編』明治図書(2014)
- ・福澤 一吉 著『文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング』NHK出版(2012)
- ・野矢 茂樹 著『新版 論理トレーニング 哲学教科書シリーズ』産業図書(2006)

#### <担当指導主事>

中野 憲一 委文 弥生